

安全データシート

作成日 2011年4月1日(第1版)

改訂日 2022年5月13日(第2版)

1. 化学品及び会社情報

製品名称 ホウ酸P
推奨用途 結膜囊の洗浄・消毒(2%以下の濃度で用いる)
会社名 健栄製薬株式会社
住所 大阪市中央区伏見町2丁目5番8号
担当部門 学術情報部
電話番号 06-6231-5822
FAX番号 06-6204-0750
連絡先 健栄製薬株式会社 学術情報部

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類

【健康に対する有害性】

皮膚腐食性/刺激性 : 区分2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分2
生殖毒性 : 区分1
特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分1(消化管、中枢神経系)
区分3(気道刺激性)

注) 上記のGHS分類で区分の記載がない危険有害性項目については、「区分に該当しない」又は「分類できない」に該当する。

GHSラベル要素

【絵表示又はシンボル】



【注意喚起語】

危険

【危険有害性情報】

皮膚刺激
強い眼刺激
生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
臓器の障害(消化管、中枢神経系)
呼吸器への刺激のおそれ

【注意書き】

【一般的注意】

医学的な助言が必要なときには、製品容器やラベルをもっていくこと。
子供の手の届かないところに置くこと。
使用前にラベルをよく読むこと。

[安全対策]

- 使用前に取扱説明書を入手すること。
- すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- 取扱い後は顔と手をよく洗うこと。
- 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
- 粉じんを吸入しないこと。
- この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- 屋外又は換気の良い場所だけで使用すること。

[応急措置]

- 皮膚についた場合：多量の水と石けんで洗うこと。
- 皮膚刺激が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。
- 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- 眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。
- ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当てを受けること。医師に連絡すること。
- 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- 気分が悪いときは医師に連絡すること。

[保管]

- 施錠して保管すること。
- 換気の良いところで保管すること。容器を密閉しておくこと。

[廃棄]

- 内容物／容器を地方／国の規制に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 化学物質

成分名	CAS 登録番号	含有量	化審法番号
ホウ酸	10043-35-3	100%	1-63

注記：この値は製品規格値ではありません。

GHS 分類に寄与する成分 : 安衛法「表示すべき有害物」該当成分
 ホウ酸
 安衛法「通知すべき有害物」該当成分
 ホウ酸
 化管法「指定化学物質」該当成分
 ホウ酸

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
呼吸に関する症状が出た場合：医師に連絡すること。
- 皮膚に付着した場合 : 汚染された衣類を脱ぎ、多量の水で洗うこと。
直ちに医師に連絡すること。
- 眼に入った場合 : 水で数分間以上注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
直ちに医師に連絡すること。
- 飲み込んだ場合 : 口をすすぐこと。
直ちに医師に連絡すること。

急性症状及び遅発性症状の
最も重要な徴候症状

: 吸入したとき；咳、咽頭痛
皮膚に触れたとき；軽度の皮膚刺激
眼に入ったとき；結膜白濁、結膜水疱
経口摂取したとき；腹痛、吐き気

5. 火災時の措置

【消火剤】

適切な消火剤 : 霧状水、粉末、泡、炭酸ガス
使ってはならない消火剤 : 棒状水

【特有の危険有害性】

特有の危険有害性 : 火災によって刺激性、有毒又は腐食性のガスが発生するおそれがある。

【消火を行う者への勧告】

特有の消火方法 : 周辺火災の場合は、危険でなければ速やかに安全な場所に移す。
移動が困難なときは、容器及び周辺に散水して冷却する。
消火活動を行う者の特別な
保護具及び予防措置 : 消火作業は風上から行い、自給式又は防毒マスク等の適切な空気呼吸器等
の保護具、保護眼鏡を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、
保護具及び緊急時措置 : 適切な保護具を着用する。
作業時は全ての着火源を取り除き、全体及び局所排気により適切な作業環
境の維持、ばく露防止に努めること。
直ちに全ての方向に、適切な距離を漏洩区域として隔離する。
関係者以外の立入りを禁止する。密閉された場所に立入る前に換気する。
環境に対する注意事項 : 河川に排出され、環境へ影響しないように注意する。
環境中に放出してはならない。
封じ込め及び浄化の方法
及び機材 : 掃き取り、密閉容器に回収する。
二次災害の防止策 : 排水溝、下水溝、地下室或いは密閉場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

【取扱い】

技術的対策 : 推奨用途以外には用いないこと。
多量に扱う場合には保護具を着用すること。
炎、火花、高温体との接近及び加熱、衝撃、摩擦を避けること。
高温、長期保管を避けること。
局所排気・全体換気 : 多量に扱う場合には局所排気、全体換気を行うこと。
安全取扱い注意事項 : 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
この製品及び溶解した液を飲まないこと。
接触回避 : 「10. 安定性及び反応性」の項を参照。
衛生対策 : 取扱い後は顔と手をよく洗うこと。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

【保管】

安全な保管条件 : 密閉容器を用い、直射日光、湿気、火気を避け、室温以下で保管する。
安全な容器包装材料 : 破損、漏れのない密閉可能な容器。

8. ばく露防止及び保護措置

【管理指標】

管理濃度	: データなし
許容濃度	: ACGIH (2004) TWA 2mg/m ³ 、STEL 6mg/m ³ (上気道刺激)

【ばく露防止】

設備対策	: 粉じんの発生源を密閉する設備又は全体換気、局所排気装置等を設ける。 洗眼設備、手洗い場、洗顔設備を設置する。
保護具	: (呼吸用保護具) 粉じん用保護マスク等の呼吸用保護具を着用する。 (手の保護具) 保護手袋を着用する。 (眼の保護具) 粉じん用保護メガネ、側面シールド付安全メガネ又は化学品用ゴーグル等を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: 結晶又は結晶性の粉末
色	: 無色又は白色
臭い	: なし
融点/凝固点	: 176°C
沸点又は初留点及び沸騰範囲	: データなし
可燃性	: 難燃性
爆発下限界及び爆発上限界/ 可燃限界	: データなし
引火点	: データなし
自然発火点	: データなし
分解温度	: データなし
pH	: 3.5-4.1 (1g/水 20mL)
動粘性率	: データなし
溶解度	: 水にやや溶けやすい/温湯に溶けやすい
n-オクタノール/水分配係数	: データなし
蒸気圧	: データなし
密度及び/又は相対密度	: 1.05 (嵩比重 g/ml)
相対ガス密度 (空気=1)	: データなし
粒子特性	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: データなし
化学的安定性	: 通常の保管条件/取扱い条件において安定である。
危険有害反応可能性	: 加熱すると水を順次失い、100~150°Cでメタほう酸、140~160°Cテトラほう酸を経てガラス状の酸化ほう素となる。加熱時メタほう酸等の蒸気及びヒューム、ガスの発生がある。
避けるべき条件	: 火源との接触
混触危険物質	: データなし
危険有害な分解生成物	: ヒューム、メタほう酸等

11. 有害性情報

急性毒性（経口）	: ラット LD50=2660-5140mg/kg (NITE 初期リスク評価書, 2008)
急性毒性（吸入；粉じん）	: ラット LCL ₀ =28mg/m ³ /4h (DFGOT vol. 5 (1993))
皮膚腐食性／刺激性	: モルモット/ウサギ 軽度から中等度の皮膚刺激性 (PATTY 6th, 2012)
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	: ヒト 刺激性 (ACGIH 7th, 2005)
呼吸器感作性又は皮膚感作性	: データなし
生殖細胞変異原性	: データなし
発がん性	: ヒト発がん性因子として分類できない (ACGIH-A4, 2005)
生殖毒性	: cat. 1B (NTP DB (Access on Aug. 2013))
特定標的臓器毒性	
単回ばく露	: 区分 1 (消化管、中枢神経系) 嘔吐、下痢、中枢神経系の抑制、痙攣 (ACGIH 7th, 2005) 区分 3 (気道刺激性) 気道刺激性 (ECETOC TR63, 1995)
反復ばく露	: データなし
誤えん有害性	: データなし

12. 環境影響情報

生態毒性	
水生環境有害性 短期（急性）	: 魚類（ギンザケ）LC50=447mg/L/96h (NITE 初期リスク評価, 2008)
水生環境有害性 長期（慢性）	: 魚類（ニジマス）NOEC=2.1mg/L (NITE 初期リスク評価, 2008)
水溶性	: 5g/100mL (PHYSPROP_DB, 2005)
残留性・分解性	: データなし
生体蓄積性	: データなし
土壤中の移動性	: 環境影響が懸念されるので、製品や洗浄水が、地面、川、排水溝へ直接流れないように注意すること。
オゾン層への有害性	: 当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

13. 廃棄上の注意

【化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報】

廃棄物の処理方法	: 一定容器に取りまとめ、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理事業者に処理業務を委託する。
汚染容器及び包装	: 清浄にしてリサイクルするか、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理事業者に処理業務を委託する。

14. 輸送上の注意

【国際規制】

国連番号、国連分類	: 該当しない
IMDG Code (国際海上危険物規程)	: 該当しない
IATA 航空危険物規則書	: 該当しない

【国内規制】

船舶安全法	: 該当しない
航空法	: 該当しない

15. 適用法令

【当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令】

労働安全衛生法	: 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物 ホウ酸
化学物質排出把握管理促進法	: 第一種指定化学物質 ホウ酸
大気汚染防止法	: 有害大気汚染物質 ほう素化合物
土壌汚染対策法	: 第2種特定有害物質 ほう素及びその化合物 法令番号; 政令第1条第24号 土壌含有量基準 $\leq 4000\text{mg/kg}$ 土壌溶出量基準 $\leq 1\text{mg/L}$
水質汚濁防止法	: 有害物質 ほう素及びその化合物 法令番号; 政令第2条第24号 排水基準; 海域以外の公共用水域 10mg B/L 海域 230mg B/L

16. その他の情報

【参考文献】

化学物質総合情報提供システム 製品評価技術基盤機構 (NITE)
 職場のあんぜんサイト 化学物質 GHS 対応モデルラベル・モデル SDS 情報
 欧州化学品庁 (EUROPEAN CHEMICALS AGENCY) ECHA SDS 情報
 JIS Z 7252: 2019
 JIS Z 7253: 2019

【責任の限定について】

本記載内容は現時点で入手できる資料、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には用途に適した安全対策を実施の上でご利用下さい。記載内容は情報提供であって保証をなすものではありません。